

令和6年度

「運営に関する計画」

— 最終評価 —

大阪市立市岡中学校

## 大阪市立市岡中学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

### ○ 学校教育目標

自律した個人として自己を確立させ、他者と協力し、これからの社会を担うことをめざし、心豊かに力強く生き抜く力を育む

### I、学校運営の中期目標（2025年度末まで）

#### 現状と課題

- ・心豊かに力強く生き抜く力を育むため、主体的・対話的で深い学びが求められている。それを目指すべく、一方通行の授業形態の改善に取り組んでいる。学びの主役を生徒に据え、日々の学習活動において、工夫・改善を図ることで、生徒の学習に対する取り組みに積極的な姿勢がみられるようにしていく。その成果の一つとして、チャレンジテストにおける対府比を同一母集団で比較し前年より向上しているか、また、校内調査における対話的で深い学びにかかる質問への最も肯定的な回答の割合を指標とする。
- ・他者と協力し、これからの社会を担うことをめざせるために、様々な教育活動の場面で、互いを思いやる心の育成を主眼とした学校行事の計画実践が必要である。本校の生徒は、他者と協力し合う姿勢の定着がみられ、秩序ある集団に成長しつつある。さらに改善と向上を目指す必要がある。
- ・自律した個人として自己を確立させるために、道徳心をしっかりと熟成させ、生徒に他との違いを感じさせる体験を十分に積ませることが必要である。
- ・安全で安心した学校環境を確立するための特別支援教育の充実は必要不可欠である。ユニバーサルデザインの定着を図り、特別支援教育担当、特別支援委員会を中心に、生徒個々の状況をしっかりと把握するとともに、共通理解をし、全教職員で、生徒に寄り添い、一人ひとりを大切にしたきめ細やかな指導と支援の充実、定着を図る必要がある。

## 学校運営の中期目標（2025年度末まで）

### 【安全・安心な教育の推進】

- 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を85%以上にする。
- 年度末の校内調査における、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。
- 年度末の校内調査における、「自分には、良いところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を60%以上にする。
- 中学校チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.2ポイント向上させる。
- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の対全国比を男女ともに前年度より0.1ポイント向上させる。

### 【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。
- 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を50%以上にする。

## 2、中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

### 【安全・安心な教育の推進】

- ・年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を82%以上にする。(R5 77%)⇒82%
- ・年度末の校内調査における、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。(R5 9.8%)  
⇒12.8%
- ・年度末の校内調査における、「自分には、良いところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を75%以上とする。(R5 72%)⇒75%
- ・多様な学びを保障するための場所を1教室以上、担当する人材を2名以上確保し、市岡中スタンダードver3.0の定着を図り、不登校生の減少につとめる。⇒確保できている

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を50%以上にする。(R5 43%)⇒49%
- ・中学校チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.1ポイント向上させる。(R5 [1年]国語0.97/数学0.98・[2年]国語0.95/数学0.90)⇒[1年]国語/数学・[2年]国語/数学・[3年]国語0.99/数学0.85
- ・全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の対全国比を男女ともに前年度より0.05ポイント向上させる。(R5 男子1.03/女子1.04)⇒男子1.03/女子1.04
- ・中学校チャレンジテストにおける社会・理科・英語の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.1ポイント向上させる。(R5 [1年]英語0.96・[2年]社会1.03/理科0.75/英語0.93)⇒[1年]英語・[2年]社会/理科/英語・[3年]社会0.91/理科0.88/英語0.96
- ・授業評価アンケートにおける「授業はめあてと振り返りがわかりやすく提示されていますか」に対して、学校平均を3.55ポイント以上とする。(R5 3.48) ⇒3.53

### 【学びを支える教育環境の充実】

- ・授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。⇒(4月)40.0%・(5月)38.1%・(6月)15.8%・(7月)23.1%・(8月)25.0%・(9月)21.1%・(10月)63.6%・(11月)42.1%・(12月)62.5% 累計38.5%
- ・「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満た

## 3、本年度の自己評価結果の総括

- ・一方通行の授業形態の改善への取り組みは計画どおりに進んでおり、校内調査における対話的で深い学びにかかる質問への最も肯定的な回答の割合も昨年の43%から49%と増加している。今後も学習活動において、工夫および改善を図り、学力向上にむけて取り組んでいく。
- ・数値目標だけ判断すると達成できていないが、不登校生徒の出席できる日数が増加していたり、別室登校している生徒向けに補充授業を行うことで学力向上につながったり、次年度に向けて教室へ戻ることを目標に行動している生徒がいたりしており、内容としては改善傾向にある。
- ・現在行っている取組について振り返り、継続すべきところと改善すべきところを分析し、生徒と教職員、保護者や地域と連携を取るとともに、取組に関する情報を発信し、取組の質を高めていく。

大阪市立市岡中学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した  
C：取り組んだが目標を達成できなかった

B：目標どおりに達成した  
D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>(1) 安全・安心な教育の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を82%以上にする。(R5 77%) ⇒82%</li> <li>年度末の校内調査における、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。(R5 9.8%) ⇒12.8%</li> <li>年度末の校内調査における、「自分には、良いところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を75%以上にする。(R5 72%)⇒75%</li> <li>多様な学びを保障するための場所を1教室以上、担当する人材を2名以上確保し、市岡中スタンダードver3.0の定着を図り、不登校生の減少につとめる。⇒確保できている</li> </ul>	B
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
<p><b>取組内容①【道徳教育の推進】(道徳推進担当)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>年間計画に基づき道徳の授業を確保し、授業に使用する読み物教材の研究に努める。また、人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、他者と共によりよく生きるための道徳性を養えるよう努める授業の質を向上させる。</li> <li>大阪府中学校道徳教育研究発表会「大阪市大会」で研究発表会を行う。</li> </ul> <p><b>指標</b> 年度末の学校評価アンケート(生徒)において、「道徳の学習を通して自他を尊重し、互いを思いやる心が養えていると思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を90%以上にする。</p>	B
<p><b>〔進捗状況〕</b> 12月4日の公開授業に向けて準備を進めている。各学年道徳の授業をローテーションにて実施中。</p> <p><b>〔目標の達成状況と結果と分析〕</b> 後期の学校評価アンケートで、指標となる項目の肯定的意見は94%であり、目標は上回った。よりよく生きるための『議論する道徳の授業』を展開していくためにも、教員の力量をあげるべく研修を充実させていく。</p>	
<p><b>取組内容②【人権を尊重する教育の推進】(人権主担)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自己を見つめ自分に自信が持てる生徒を育て、他者とともに協力しあえる集団を育成する</li> <li>地域に根付いた思いやりのある生徒および学校を作り、生徒の学ぶ力、生きる力をはぐくめるよう、人権教育を実践する。</li> <li>各学年、学級、部、委員会、校内組織などと連携し、生徒の生活課題を把握し、共通理解する中で、生徒の学ぶ力および生きる力を育む実践を創造し人権教育を推進する。</li> <li>特別支援教育では、通常学級との交流を行い、共に豊かに生きる集団育成に努める。また、保護者連携を大切にし、進路保障に努める。</li> </ul> <p><b>指標</b> 年度末の学校評価アンケート(生徒)において、「人権の大切さについて学ぶ機会が多いと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。</p>	B
<p><b>〔進捗状況〕</b> 前期の学校評価アンケートにおいて「人権の大切さについて学ぶ機会が多いと思いますか」の項目で肯定的な意見が94%であった。引き続き人権学習を積極的に進めていく必要がある。特別支援教育での交流学習などは継続してすすめていく。</p> <p><b>〔目標の達成状況と結果と分析〕</b> 特別支援教育の交流学習や保護者連携は例年通り行うことができた。これからもそれぞれに合った交流学習を進めていきたい。</p>	

**取組内容③【キャリア教育の推進】（進路主事）**

- ・生徒一人一人が自分の個性や存在の大切さを自覚し、互いに認め励ましあい、高めあうことができる集団の育成に努める。

1年 自己の個性や職業の適正など自己理解を図る実践を行う（SP トランプなど）

2年 職業講話（職業体験）、高校調べ、出前授業など進路を具体的にイメージできる実践を行う。

3年 進路説明会（生徒・保護者）を春、秋に実施し、体験入学、学校説明会に積極的に参加するよう促し、進路選択を主体的に行えるようにする。

B

**指標** 年度末の学校評価アンケート（生徒）において、「将来の進路や生き方について考える機会がありましたか」に対して、最も肯定的に回答する生徒の割合を50%以上にし肯定的に回答する生徒の割合を90%以上にする。

**〔進捗状況〕**

前期アンケートで最も肯定的回答が51%、肯定的評価の合計が91%である。2年での高校出前授業を計画している。

**〔目標の達成状況と結果と分析〕**

学校評価アンケートの「将来の進路や生き方について考える機会があった」の項目において「よくあてはまる」を46%、「やや当てはまる」と合わせた肯定的評価が91%であり、目標としていた「よくあてはまる」50%以上には届かなかったが、全体として肯定的評価90%以上は維持できた。学年別では3年が「よくあてはまる」が53%で2年42%、1年41%となっている。

今年度は2年生で職場体験学習を1学期に実施し、より早い段階からキャリア教育の実践に取り組むことができた。一方で高校出前授業を3学期に実施することを検討したが、高校側との日程調整が困難だったため3年の1学期実施に変更した。1年は3学期にSPトランプを計画しており、来年度は2年で1学期に職場体験、2学期中に高校出前授業を実施、3学期からは進路選択の具体的な内容を指導していくように改善し、2年から意識を高めていくようにしたらよいと考えている。

**取組内容④【校種間連携】（小中連携CO）**

- ・小・中学校間における相互理解の意識を高めるため、学習指導や生活指導などの情報の共有を行い、生徒指導などに生かす。
- ・小・中合同による、全教員の研修会を計画、実施する。
- ・小学生対象の授業体験、部活動体験を計画、実施する。

B

**指標** 小中連携の機会を年に1回以上設ける。また、小学生を対象とした、授業体験、部活動体験を年に1回実施する。

**〔進捗状況〕**

11月28日に体験授業および部活動体験を実施予定。現在、それに向かって準備を進めている段階。

**〔目標の達成状況と結果と分析〕**

8月に小中連絡会を実施し、学校間での情報交換を行った。11月28日に体験授業および部活動体験を実施、また各小学校に事後アンケートも実施した。

<p><b>取組内容⑤【いじめへの対応】(生活指導部)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全教職員があらゆる場面において、いじめは絶対に許されないものであることを指導し、いじめの未然防止に努め、早期発見、早期対応に取り組む。また、いじめアンケートについてスクールライフノートを活用して入力させ、定期的に確認する。(最低月1回)</li> </ul>	B
<p><b>指標</b> 年度末の学校評価アンケート(生徒)において、「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を95%以上にする。</p>	
<p><b>〔進捗状況〕</b> 前期アンケートでは肯定的な回答割合が97%であり、指標を上回っている状況である。(※最も肯定的な意見は81%) 生徒会執行部による「いじめ・いのちについて考える日」の取り組みでは、全校生徒を対象に事前にアンケートを実施し、その結果をもとに各学年集会で報告会とまとめを行った。</p>	
<p><b>〔目標の達成状況と結果と分析〕</b> 後期アンケートでは肯定的な回答割合が98%であり、指標を上回った。(※最も肯定的な意見は82%となり、学校全体の目標数値も上回った。) 「いじめ・いのちについて考える日」の生徒会の取り組みだけでなく、「いじりといじめ」について考える学習やいじめ防止啓発動画の作成など、各学年での取り組みを充実させることができた。</p>	
<p><b>取組内容⑥【問題行動への対応】(生活指導部)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・問題行動について「日々の記録」を活用し情報を共有し、発生時には全教職員で協力、連携して対応にあたる。</li> <li>・校務部会、主任会、職員会、職員朝礼などで毎日情報を共有し、生活指導の共通理解を図り、全教職員が協力、連携して指導にあたる。</li> </ul>	C
<p><b>指標</b> 年度末の生活指導部独自アンケート(教職員)において、「生徒の問題行動について情報を共有し連携して対応できたか」の項目について肯定的な回答割合を90%以上にする。</p>	
<p><b>〔進捗状況〕</b> 10月に実施した前期アンケートの結果、肯定的な意見は93%となり目標とする指標は超えているものの、「最も肯定的な回答」は0%であった。職員朝礼等での情報交換をさらにこまめに刻む必要がある。</p>	
<p><b>〔目標の達成状況と結果と分析〕</b> 12月実施の後期アンケートでは、肯定的な意見が84%となり目標とする指標に届かなかった。 指導事案が起きた時に一部の教職員だけで動くのではなく、まずは「情報共有」することを次年度は徹底していきたい。</p>	
<p><b>取組内容⑦【防災教育の推進】(健康教育部)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各種(火災、地震・津波、不審者)防災訓練を年1回行い、防災に関する意識を高める。</li> <li>・地域との連携による防災訓練を計画実施し、防災拠点としての存在を確認する。</li> </ul>	B
<p><b>指標</b> 年度末の学校評価アンケート(生徒)において、「防災活動で役に立ちたいとおもいますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。</p>	
<p><b>〔進捗状況〕</b> 1学期に火災を想定した避難訓練、2学期に880万訓練において地震・津波を想定した避難訓練を予定通り行うことができた。11月の区役所が主催する防災訓練・ジュニア防災リーダー講習、3学期の不審者対応訓練を実施する予定。</p>	
<p><b>〔目標の達成状況と結果と分析〕</b> 年度末の学校評価アンケート(生徒)において、「防災活動で役に立ちたいとおもいますか」にて、肯定的に回答する生徒の割合が94%となり目標とする指標を超えることができた。しかし、内容が毎年同じようなものであるため、他中で行っている取り組みも参考にしていきながら新しいことも取り入れていき、生徒たちが防災について考える機会をさらに増やしていきたい。</p>	

<p><b>取組内容⑧-1 【特別活動 生活指導部】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会専門委員を分担し、生徒会活動を充実させる。</li> <li>・学校行事、学級活動、部活動などを通じ、集団意識を高める。</li> <li>・部活動の充実、活性化を図る。</li> </ul> <p><b>指標</b> 年度末の学校評価アンケート(生徒)において、「生徒会活動・委員会活動、学級の係活動に積極的に取り組んでいますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。</p>	B
<p><b>【進捗状況】</b> 前期の時点で81%と達成できている。後期は生徒会において校則改正・文化祭や合唱コンクール・新体制での部活動など生徒が更に積極的に特別活動に取り組めるようにしていく。</p> <p><b>【目標の達成状況と結果と分析】</b> 令和6年12月実施のアンケート結果において、肯定的意見が82%となり目標の水準を達成した。目標の指標には2%届いている状況であるが、「よくあてはまる」と答えた割合は47%で5割を下回った。この結果を受け止め、生徒会役員を中心とした取り組み(校則など学校のルール改正に向けての取り組み・生徒会行事など)をさらに充実させていきたい。</p>	
<p><b>取組内容⑧-2 【特別活動 各学年】</b></p> <p>1年 様々な活動を通して、互いの違いを認め合い、支え合い協力する心を育てる。またあいさつや感謝の気持ちを伝え合える集団を育成する。</p> <p>2年 様々な活動を通して、連帯感や責任感を大切にし、仲間と協力し支えあえる集団を育成する。先輩・後輩との繋がりを意識し、自分で考えて行動できる集団を目指す。また、自分自身の特性を見つめ直し、進路を考えさせる機会を持たせる。</p> <p>3年 学年行事を含めた様々な活動を可能な範囲で生徒に運営させ、自主性と責任感を育てる。お互いに違いを認め合い、協力し支え合える集団を育成する。また自分の進路決定に対して、自ら考えて決定できる力をつける。</p> <p><b>指標</b> 年度末の学校評価アンケート(生徒)において、「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を70%以上にする。</p>	B
<p><b>【進捗状況】</b> 1年 令和6年度前期学校評価アンケートにおいて、「生徒会・委員会活動・学級活動に積極的に取り組んでいる」の肯定的回答が81%、「学校に行くのが楽しい」の肯定的回答が89%であった。一泊移住、国際理解教育、性教育などをとおして、自分と違う生徒の考えを受け入れる土台が育っている。肯定的回答が「よくあてはまる」の回答の割合を増やしていきたい。また、それ違う際のあいさつも元気にできるよう、声掛けを行っていく。</p> <p>2年 令和6年度前期学校評価アンケートにおいて、「生徒会活動・委員会活動・学級の係活動に積極的に取り組んでいる」の肯定的回答が83%、「学校に行くのが楽しい」の肯定的回答が84%であった。職場体験や体育大会などの行事だけでなく、学年中心で行う生徒集会を実施し、自分の立場を考えながら行動することができた。さらに自覚をもって行動できるようにし、「全くあてはまらない」と回答した割合を減らしていきたい。</p> <p>3年 令和6年度前期学校評価アンケートにおいて、「生徒会活動・委員会活動・学級の係活動に積極的に取り組んでいる」の肯定的回答が77%、「学校に行くのが楽しい」の肯定的回答が82%であった。行事、部活動や委員会活動などに主体的に取り組み、最高学年としての自覚をもって行動できるよう努めている。今後は、各々の進路について自ら考え、前に進んでいくことのできる力を身に着けさせていきたい。</p>	
<p><b>【目標の達成状況と結果と分析】</b> 1年 令和6年度前期学校評価アンケートにおいて、「生徒会・委員会活動・学級活動に積極的に取り組んでいる」の肯定的回答が81%、「学校に行くのが楽しい」の肯定的回答が89%であった。様々な教育をとおして、自分とは違う考え方や価値観を持った人がいることが当然であると考えられる生徒が増えた。挨拶はまだ声が小さい時や、すれ違いざまに積極的に行えない時もあるため、学級代表を中心に各クラスで声掛けを継続していく。</p> <p>2年 令和6年度後期学校アンケートにおいて、「生徒会活動・委員会活動・学級活動に積極的に取り組んでいる」の肯定的回答が88%、「学校に行くのが楽しい」の肯定的回答が87%であった。様々な取り組みをする際には、委員会生徒だけでなくボランティアを募集し、自主的に活動できる生徒が増えるように取り組んだ。また「学校に行くことが楽しい」の否定的回答率も前期より3%減らすことができた。</p> <p>3年 令和6年度後期学校評価アンケートにおいて、「生徒会活動・委員会活動・学級の係活動に積極的に取り組んでいる」の肯定的回答が73%、「学校に行くのが楽しい」の肯定的回答が91%であった。委員会活動、係活動などにおいて責任感をもって行動できている生徒もいるが、自主的に行動できない生徒もいるためそれぞれの役割を理解し行動する必要がある。また、行事などを通してクラスや学年の輪が深まることで、落ち着いて学校生活をおくることができるようになった。</p>	

<p><b>取組内容⑨【国際理解・多文化共生教育の推進】(外国人教育主担)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各活動において、人権教育に基盤を置いた国際理解、多文化共生教育に努める。</li> </ul> <p><b>指標 年度末の学校評価アンケート(生徒)において、「国際理解学習・多文化共生についての理解が深まったと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。</b></p>	<b>B</b>
<p><b>【進捗状況】</b> 外国から編入する生徒が増加している状況であり、自然に国際理解が進む方策を考える必要がある。7月には中国からの訪問団と1年生との交流があり、お互いに相手国の理解が深まった。</p> <p><b>【目標の達成状況と結果と分析】</b> 後期に実施した指標のアンケートでは、肯定的な意見が90%であった。外国出身の生徒も増え、各学年に在籍しており、自然に国際理解が進んだ。</p>	
<p><b>取組内容⑩【美化・環境整備】(健康教育部)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>校舎内外の美化および清掃活動を徹底するとともに、机・椅子等の公共物を大切にする意識を高める。</li> </ul> <p><b>指標 年度末の学校評価アンケート(保護者)において、「学校は、校内美化などの環境整備がなされている」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を95%以上にする。</b></p>	<b>B</b>
<p><b>【進捗状況】</b> 令和6年度前期の保護者アンケートで「学校は、校内美化などの環境整備がなされている」に対して、肯定的な回答が96%であった。保護者が来校する際だけでなく、常に校内美化が保ち続けられるよう日々の清掃活動を継続していく。</p> <p><b>【目標の達成状況と結果と分析】</b> 令和6年度後期の保護者アンケートで「学校は、校内美化などの環境整備がなされている」に対して、肯定的な回答が96%であり、前期に引き続き年間を通して校内美化が保ち続けられることができた。美化委員会の生徒を中心に自分たちの使う場所を継続してきれいに使い過ごしていくように教師の見守りが大切なので協力していく。</p>	
<p><b>取組内容⑪【多様な学びの充実】(管理職)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>多様な学びを保障するための場所を1教室以上、担当する人材を2名以上確保する。</li> </ul> <p><b>指標 年度末の校内調査における、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。</b></p>	<b>B</b>
<p><b>【進捗状況】</b> ステップアップルームをパソコン教室に設置し、サポーター及び教員により、常時2名以上の体制で生徒への学習保障を行っている。不登校生徒の在籍比率は昨年度の9.8%が9.6%とわずかではあるが減少している。一方で、まったく登校できていない生徒も多数おり、少しでも学校へ来ることのできる生徒を増やすために、引き続き、関係諸機関とも連携し取り組んでいく。</p>	
<p><b>【目標の達成状況と結果と分析】</b> ステップアップルームの設置により、登校日数が増加している生徒の比率は増加しているが、新たに不登校になる生徒もあり、在籍比率が増加した。関係諸機関との連携で、現認できていなかった生徒と会うことができたケースもあり、引き続き、関係諸機関との連携の重要さを実感した。</p>	
<p><b>取組内容⑫【特別支援教育の充実 情報交換】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>個々の生徒についての、効果的で全校的な情報交換を実施する。そのために「特別支援委員会」や「特別支援小委員会」を計画的に実施する。また職員会なども利用し、情報交換を行っていく。</li> </ul> <p><b>指標 教員対象の独自アンケートにおいて、「情報交換ができた」に対して、肯定的に回答する割合を80%以上にする。</b></p>	<b>B</b>
<p><b>【進捗状況】</b> 特別支援委員会や職員会を通じて情報交換を実施している。肯定的な回答も80%以上あり、継続して後期も行っていく。</p>	
<p><b>【目標の達成状況と結果と分析】</b> アンケートによると「情報交換ができた」という肯定的な回答が96%で、特別支援教育の情報交換は職員会、特別支援委員会などで行うことができたからだと考えられる。来年度もより良い情報交換を目指したい。</p>	

**取組内容⑬【特別支援教育の充実 生徒対応】**

- ・個々の生徒に応じた、より適切な対応（指導・支援）を実践する。そのために「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」に基づいた指導と支援を行い、生徒が社会に自立できるよう、可能性を伸ばす。市岡中スタンダード ver.3.0 をより全校的に取り組めるように整備していく。

C

**指標** 教員対象の独自アンケートにおいて、「市岡中スタンダード ver.3.0 に取り組めた」に対して、肯定的に回答する割合を 80%以上にする。

**〔進捗状況〕**

市岡中スタンダード ver.3.0 についてのアンケートで、環境整備に関しては 90%以上が肯定的な回答だったが、授業で「めあて」「授業の流れ」「振り返り」の明示については 80%に届かなかった。そのため、校内の研究授業などで再度、呼びかけをしていく予定で、後期では目標に到達したい。

**〔目標の達成状況と結果と分析〕**

教員対象の独自アンケートにおいて、「市岡中スタンダード ver.3.0 に取り組めた」に対して、肯定的に回答する割合を 80%以上にするという達成水準に対して、後期も教員対象の独自アンケートを行った。教室環境に関しては 100%が肯定的な意見で、授業環境に関しては「めあて」「ながれ」の明示に関しては 80%以上が肯定的な意見だった。しかし「ふりかえり」に関しては 75%と目標を下回る結果となった。そのため、工夫して周知を続けていく。

**取組内容⑭【特別支援教育の充実 進路指導】**

- ・入学前、卒業後も含めた進路指導を実践する。そのために新入生については進学相談、中学校見学会、小中連絡会、入学前懇談会等を行い、小学校や保護者との連携を密にはかる。そして卒業生については、中高連携を深めることにより、生徒把握に努める。

B

**指標** 特別支援学級在籍生徒において、卒業後の進路が決定した生徒を 100%にする。

**〔進捗状況〕**

新入生への進学相談は実施中で、入学後のスムーズな支援を行うために継続してしていく。卒業後の進路も継続して指導していく。

**〔目標の達成状況と結果と分析〕**

長期の欠席をしている生徒は、進路を選択するのが困難な場面もあったが、全員の進路がほぼ確定できそうな状態になっている。進路決定後は必要ならば、進路先と情報交換を行う予定である。また、来年度の1年生に関しても小学校や保護者と連携し、生徒把握を行っている。

大阪市立市岡中学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>(2) 未来を切り拓く学力・体力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を50%以上にする。(R5 43%)⇒49%</li> <li>・中学校チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年に比較し、いずれの学年も前年度より0.1ポイント向上させる。(R5 [1年] 国語 0.97/数学 0.98・[2年] 国語 0.95/数学 0.90) ⇒[1年]国語/数学・[2年]国語/数学・[3年]国語 0.99/数学 0.85</li> <li>・全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の対全国比を男女ともに前年度より0.05ポイント向上させる。(R5 男子 1.03/女子 1.04)⇒男子 1.03/女子 1.04</li> <li>・中学校チャレンジテストにおける社会・理科・英語の平均点の対府比を、同一母集団において経年に比較し、いずれの学年も前年度より0.1ポイント向上させる。(R5 [1年] 英語 0.96・[2年] 社会 1.03/理科 0.75/英語 0.93) ⇒[1年]英語・[2年]社会/理科/英語・[3年]社会 0.91/理科 0.88/英語 0.96</li> <li>・授業評価アンケートにおける「授業はめあてと振り返りがわかりやすく提示されていますか」に対して、学校平均を3.55ポイント以上にする。(R5 3.48)⇒3.53</li> </ul>	B
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①ーⅠ【教務部 授業を伴う校内研修の充実】(研修主担)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全教職員が年1回以上の公開授業を実施し、意見交換をする中で、指導力の向上を目指す。</li> <li>・公開授業のテーマを決め、2か年計画で授業力の向上を目指す。           <ul style="list-style-type: none"> <li>①ICTを使用する授業展開（令和5年度）</li> <li>②生徒の学力向上（読解力・探求力）を目標にした、自身がこれまでに導入したことのないICTを活用する授業展開（令和6年度）</li> </ul> </li> <li>・各教職員が、説明・板書・発問の実施方法を見直し、生徒にとって「わかりやすい授業」となるよう工夫する。その為に他の教員の授業を積極的に見学する。</li> </ul>	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全教職員が年1回以上、授業研究を実践する。2回以上見学する。</li> <li>・年度末の学校評価アンケート（生徒）において、「授業はわかりやすく、楽しいですか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を85%以上にする。</li> </ul>	
<p>〔進捗状況〕</p> <p>10月から12月にかけて研修旬間を設定して研究授業と授業の参観行っていく。また、12月には府中道徳研究発表会の公開授業が行われ、全職員が参観予定である。</p> <p>本年度は研修旬間に向けて、SKIP会議室機能を利用したICT利用の情報交換、プレ研修旬間での授業見学を設定した。</p>	
<p>〔目標の達成状況と結果と分析〕</p> <p>全教職員が研究授業旬間を中心に研究授業と授業見学を行った。また、研究授業旬間後に行ったアンケートでは65%がプレ研究授業旬間に授業見学を行った。府中道徳研究発表会の公開授業においても全教職員が見学を行った。</p> <p>年度末の学校評価アンケート（生徒）において、肯定的に回答する生徒の割合は全体で87%と目標を上回った。学年別にみると、1年は94%だが、2年84%、3年83%と目標を下回る。生徒の自由記述には「わからない」「きらい」「だるい」といったものがあった。</p> <p>本年度の研究授業のテーマが「自分がこれまでに導入したことのないICTの活用」だったが研究授業旬間後の教員アンケートでは、日々の授業でICTの活用が進んでいるように感じた。ICTを活用しつつ読解力・探求力の向上を目標とした授業展開の研究と情報交換を進めていきたい。</p>	

<p><b>取組内容①－2 【教務部 自主学習習慣の確立】(学力向上担当)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・宿題や課題の提出、確認テストなどの実践により、生徒の学習理解度を確認し、生徒が一人で学ぶことができる学習教材を提供し、自主学習の習慣を身につけさせる。</li> <li>・学校元気アップ事業と共同で放課後などの補習を含めた自主学習会を開催し、参加生徒の目標をのべ1000人以上にし主体的な学びと自主学習の定着をはかる。</li> </ul>	C
<p><b>指標</b> 年度末の学校評価アンケート(生徒)において、「学校以外の場所で、自発的に授業の予習・復習をしていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を70%以上にする。</p>	
<p><b>〔進捗状況〕</b> 前期の学校評価アンケートでは指標の設問に肯定的な回答した生徒の割合は70%であった。主体的な学びと自主学習の定着を目指し、引き続き取り組みを継続していく。</p>	
<p><b>〔目標の達成状況と結果と分析〕</b> 最終の学校評価アンケート(生徒)において、肯定的に回答する生徒の割合は全体で63%と目標を下回った。学年別にみると1年は67%、2年61%、3年62%となった。生徒の自由記述には「勉強がきらい、苦手」「めんどくさい」といったもののが多かったが「習い事が忙しい」というものもあった。図書室を利用した放課後自主学習会はテスト前5回、長期休み5回実施し、延べ参加人数は1年18人、2年126人、3年52人、計196人となった。 個々の習熟段階に応じて学習しやすく、短時間でも学習できるといった点からICTの活用が有効ではないかと考える。各教科においてICTの活用は定着してきているように感じるが、生徒の活用のために工夫や対策が必要ではないかと考える。</p>	
<p><b>取組内容②－1 【各教科】(国語)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手や目的に応じて、筋道立てで適切に文章を書くことができるよう、作文指導、手紙・葉書の書き方指導を行い、「書く能力」の向上に努める。また視写の活動を通して、多くの文章に触れさせて「書く能力」および「読解力」を向上させる。</li> <li>・話を的確に聞き取り、丁寧かつ適切に文章化する力を養えるよう、ノートのまとめ方の指導を行う。</li> <li>・読書に親しみを持つことができるよう、図書館を利用した授業づくりや、朝読書の振り返りを行うことで、「読む力」の育成につなげる。</li> <li>・様々な授業づくりを行いながら、言語活動に進んで取り組み、互いに伝え合うことに熱心な姿勢がみられるよう、国語への「主体的に学習に取り組む態度」を育てる。</li> </ul>	B
<p><b>指標</b> ・授業内に実施する独自のアンケートにおいて、「積極的に学習に取り組もうとした」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を70%以上にする。 ・チャレンジテストで「大阪府の平均」と同水準にする。 ・漢字検定の合格率を55%以上にする。</p>	
<p><b>〔進捗状況〕</b> ・漢字の小テストを継続して行い、漢字検定合格率が上がるよう、努力をさせている。 ・また、1、2年では、図書館司書指導の下、味見読書を行い、その後、ビブリオに挑戦させ、「読む力」を育成中である。 ・4～5人で教科書を読ませたり、話合いをさせることにより、自分の意見を言いやすい環境づくりを図っている。</p>	
<p><b>〔目標の達成状況と結果と分析〕</b> 授業の中で、感想を書かせると、100字程度であれば、8割の生徒が達成できるようになった。ノートの提出率も9割を超えていた。 独自アンケートにおいて、「1・2年でビブリオバトルを実施したことで、今までより読書に興味をもつようになった。」「積極的に学習に取り組もうとした。」という項目に対し、70%が肯定的な回答をした。 3年のチャレンジテストでは、大阪府平均にやや足りなかったものの、ほぼ平均に近づいた。1・2年の結果はまだでていない。 漢字検定では3級の合格率が50%であったが、4級、5級は25%であった。教材の工夫をすることによって、もう少し合格率をあげることができるのでないかと思われる。</p>	

## 取組内容②-2 【各教科】<社会>

- ・自ら課題を見つけて発表する力を育成し、社会に関する関心を高められるようにする。
- ・生徒が主体の授業を展開し、社会的事象についての思考力をつけ、社会の変化をふまえて、公正に判断し表現することができるようになる。
- ・さまざまな資料やグラフを活用することにより、分析する力を養い、より深く考える力を育成する。
- ・小テストや課題学習を実施し、授業内容を精選して、基礎的な学力の定着をはかる。

B

- 指標
- ・授業内に実施する独自のアンケートにおいて、「社会の授業を受けて、色々な角度からものを考えたり、深めたりすることができる」「自分の考えを授業の中で表現できる」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を70%以上にする。
  - ・各学年のチャレンジテストで府平均（1年は市）を上回る。

### 〔進捗状況〕

- ・授業内に実施する独自のアンケートの結果において、「社会の授業を受けて、色々な角度からものを考えたり、深めたりすることができる」の割合は、1年生で91%、2年生で87%、3年生で82%となり、「自分の考えを授業の中で表現できる」の割合は、1年で95%、2年生で90%、3年生で83%であった。
- ・ICT機器を活用してそれぞれが資料を作成したり、まとめ学習をしたりして情報や考えを深めることができている。
- ・小テストなどを繰り返すことで基礎的な学力の定着を図っている。

### 〔目標の達成状況と結果と分析〕

授業内に実施する独自のアンケートの結果において、「社会の授業を受けて、色々な角度からものを考えたり、深めたりすることができる」の割合は、3学年とも85%を超え、「自分の考えを授業の中で表現できる」の割合は、3学年とも90%を超え、どちらも目標を達成することができた。

1、2年生についての結果はまだあるが、3年生のチャレンジテストは府平均を下回り、目標を達成することができなかった。小テストなどで知識の定着を図るのはもちろん、資料の読み解きや表現力をつなげるための学習活動も増やしていきたい。

## 取組内容②-3 【各教科】<数学>

- ・基本的事項の習熟を図り、基礎学力の向上に努める。特に導入における教材および授業形態の工夫を進めることで『主体的に学習に取り組む態度』を高め、学習に対する前向きな姿勢を育む。
- ・日々の授業において復習の機会を確保し、小テストなど理解度の確認を行うことや練習問題に繰り返し取り組ませることで『知識及び技能』を深める。
- ・事象を多面的にとらえ、ひとつの設問に複数の解法を見出すなど数学的な『思考力・判断力・表現力』を身につけるため、基礎学力の向上に加えて発展的な内容に取り組む力を養う。

C

- 指標
- ・習熟度別授業の実施前後のアンケートにおいて、「今の授業形態が自分の学習に相応しいと思う」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を10%上げる。
  - ・チャレンジテストにおいて、「大阪府の平均」との差を昨年度よりも縮める。

### 〔進捗状況〕

- ・授業内に実施したアンケートの結果において、「今の授業形態が自分の学習に相応しいと思う」に対して、肯定的に回答した生徒の割合は、3年生で習熟度前は74%で習熟度後は85%であった。
- ・夏季休業中に補修を行ったり、3年生では通常授業において通年分割を行ったりするなど学力の向上に努めている。

### 〔目標の達成状況と結果と分析〕

授業内でのアンケートで、習熟度分割授業のほうが自分の学習に相応しいと思う割合は8割であった。

チャレンジテストは、3年生は-7.3ポイントで昨年度（2年生のときは-5.2ポイント）より差が開いた。全体的に基礎力に課題がある生徒が多く、1学期の分割授業だけでは補いきれなかった。

1、2年生は結果を待って分析し、次年度につなげたい。

分割授業において個々に応じた学習がしやすくなったからか、授業や課題で出された問題に積極的に取り組む生徒は増加傾向にある。

## 取組内容②-4 【各教科】<理科>

- ・「知識・技能」 発達段階に応じて、子どもたちが知的好奇心を持って自然に親しめるように、観察実験を多く取り入れる。また、科学的な認識の定着を図り、調べる能力や正しく判断する能力を養う。
- ・「思考・判断・表現」 指導内容に応じて、観察や実験の結果を整理し考察する学習活動を取り入れる。現象を科学的な考え方を用いて言葉や図・表などを用いて表現できるようになる。
- ・「主体的に学習に取り組む態度」 主体的に実験・観察に参加できるような実験技能の習熟をめざす

B

- 指標
- ・授業内に実施する独自のアンケートにおいて、「授業はわかりやすい」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を70%以上にする。
  - ・中学校チャレンジテストにおける平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.1ポイント向上させる。なお、1学年においては対市比を-5ポイント以内とする。

### 〔進捗状況〕

理科の授業をわかりやすくするために、実験や観察を取り入れ活動している。また、考察をするときの発問に工夫をして生徒が自ら原理を導くような授業を目指している。ICT機器を使い、共同的な学習を行うことで、主体的・対話的で深い学びを目指している。1, 2年の自由研究や、動物調べなどで、生徒の興味を持った課題を組ませることができた。3年生においては、定期テストごとの1, 2年生の復習や夏休みの補習学習を行い、基礎学力の定着喚起が行えた。

### 〔目標の達成状況と結果と分析〕

授業内に実施する独自のアンケートにおいて、「授業はわかりやすい」に対して、肯定的に回答する生徒の割合は85.2%であった。次年度はわかりやすいという観点だけでなく、学習が定着できているのかという観点も追加したいと考える。

中学校チャレンジテストにおける平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較したところ、3年生については、2年生時(-10.1ポイント)から3年生時(-6.6)で+3.5ポイントの向上が見られた。定期テスト前の復習テスト等の取り組みが結果に影響したのだと考える。1, 2年生は結果を待って分析し、次年度につなげたい。

## 取組内容②-5 【各教科】<音楽>

- ・「主体的に取り組む態度」 毎時間、学習内容・学習到達点を明確にすることで意識を高め、振り返りをし「できた」という達成感を味わえるようにする。
- ・「知識・技能」発声、発音、奏法、ブレスコントロール、音程、表情、リズム感、曲のまとまりや雰囲気を表現する技能が身についているか、授業や実技テスト、筆記テストで確認する。
- ・「思考・判断・表現」 音楽の表現を高めるために、どんなことを工夫するか考え、判断し、実践につなげられるようにする。また、作曲家の意図や思い、楽譜に書かれている記号などを意識して演奏できているかを毎回の授業や実技テスト等により確認する。

A

- 指標
- 授業内に実施する独自のアンケートにおいて、「授業はわかりやすい」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。

### 〔進捗状況〕

実技(歌唱)特に発声において、発声が特別なものではなく生活の中で自然に使い分けている声(甘え声・怒り声・悲鳴など)を例にあげながら、自信をもって取り組めるようにしている。(器楽)基本練習を徹底し、苦手な生徒もどんな曲でも1か所以上は演奏できる箇所があるように取り組んだ。鑑賞に関しては、曲の時代背景も学習し、作曲者がどのような心情だったのかを学ぶことで、生徒自身が創作活動する時のヒントになるように関連付けて取り組んでいる。

### 〔目標の達成状況と結果と分析〕

・授業内に実施する独自のアンケートにおいて、「授業はわかりやすい」に対して、肯定的に回答する生徒の割合は95%であった。また、実技を生活と関連させて取り組んだことにより、音楽は目に見えて学習したことが分かることがほとんどないが、音楽が生活にもたらす影響は大きく、人生を彩り豊かにしてくれるものと考える生徒の学年が上がるごとに増えていることが分かった。また「演奏の際には、作詞・作曲者の想いを理解し表現しようとしている」という質問も1年生71%、2年生77%、3年生83%という結果で、表現の幅が増えることと学んだことが生活の役に立っていることが比例していることも分かった。今後も、3年間かけて音楽という教科が生活の役に立つているとしっかりと感じてもらえるよう、遊びなどを専門的なものに結び付け興味を持たせながら取り組んでいく。

## 取組内容②-6 【各教科】<美術>

- 制作の手順や道具の使い方をわかりやすく伝えるために ICT 機器を活用する。また、美術の得意な子どもから苦手な子どもまで取り組めるように、課題の設定を工夫する。
- グループで話し合い、自分の考えを深め作品をより良いものにする。また、鑑賞によって他者の思いを汲み取り、自分の考えを伝えられるようにする。

B

**指標** • 年度末の学校評価アンケート（生徒）において、「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を昨年の 88% と同じか上回る。

### [進捗状況]

1 学期末での指標設問に対する肯定回答は 91% である。発想の段階で班の形にして意見を交換、時間を区切って自由に意見を聞きに行ける時間を設けた。また、途中の段階や完成作品をプロジェクトで映して共有した。鑑賞では、ポイントとなる言葉をプリントに記載し、自分の思いを言葉にできるよう工夫した。

### [目標の達成状況と結果と分析]

指標設問に対する肯定回答は 1 学期末と同じく 91% だった。また、3 学年ともに昨年度の 88% を上回っていた。ひきつづき、発想時や鑑賞など意見交換の時間設定とプリントや班といった形態を工夫すると共に、考えを深めたり広げたりできるように、その時々のポイントやめあてをしっかりと示せるようにしたい。

## 取組内容②-7 【各教科】<保健体育>

- 授業に必要な用具をそろえ、毎時間ラジオ体操、補強運動等の準備運動を意欲的に取り組んでいるかを自他ともに点検させて主体的に学習に取り組む態度を高める。
- 単元ごとの学習カード(考察項目含む)等を記入させることにより、各自の思考・判断力を高める。また、相互点検させることで、互いの技能などの確認を行い、適切な判断力や他者に伝える力を養う。
- 運動の楽しさ、達成感や喜びを味わいながら技能を高めるための授業の工夫を行う。
- 定期考査、学習カードなどを通じ、保健体育に関する総合的な知識・理解を高める。

B

**指標** • 全国体力・運動能力調査の結果において、2 年生の体力合計得点を大阪市平均以上にする。  
• 全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、「保健体育の授業では進んで学習に参加している」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を大阪市平均以上にする。  
• 全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、「保健体育の授業は楽しいですか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を大阪市平均以上にする。

### [進捗状況]

- 毎時間、体育委員を中心に号令をかけ、準備運動や活動が意欲的に取り組めているかを自他ともに点検させて主体的に学習に取り組む態度を高めている。
- 単元ごとの記録カード(考察項目含む)等を記入させることにより、各自の思考・判断力を高めている。また、相互点検させることで、互いの技能や形などの確認を行い、適切な判断力や、他者に伝える力を養っている。
- 教科書や動画教材などで技術への知識・理解が高まることによって、見る目が養われ、具体的な改善点や練習方法を見つけられようになってきている。

### [目標の達成状況と結果と分析]

「全国体力・運動能力調査」の結果において、男女ともに体力合計点は男子 43.67、女子 49.69 で大阪市平均（男子 41.10、女子 47.51）を上回ることができた。

「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」において、保健体育の授業では進んで学習に参加しているの肯定的回答が男子 97.1、女子 92.3 で、大阪市平均（男子 90.3、女子 87.8）を上回ることができた。

「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」において、保健体育の授業は楽しいですかの肯定的回答が男子 95.3 女子 89.3 で、大阪市平均（男子 89.7、女子 81）を上回ることができた。

振り返りシートを導入したことによって、毎時間の目標や取り組み内容が明確になり、生徒もスムーズに授業に取り組めていたと思う。改善も必要なところもあるが来年度も継続して行いたい。

**取組内容②-8【各教科】〈技術・家庭〉**

- ・生徒一人一人が自主的に取り組み、互いに協力し合い、生活の自立に必要な基礎的な知識や技能の定着に努める。
- ・「主体的に学習に取り組む態度」については、授業中の発表などの積極性な態度、話を聞く姿勢、班活動で意見をまとめて意欲的に発表するなどの姿勢、授業の参加で、より良い生活を送るための自立に向けての生き抜く力を養う。
- ・「思考・判断・表現」については、ノートやプリント、ワークにメモをとり、テスト前の自主学習等を提出することで、自ら考えまとめて表現する力を養う。
- ・「知識・技能」については、学習した内容を定期テストの実施によりさらなる定着を図る。また実習を行うことで作業の丁寧さ、行程を考えることで意欲的に基礎的な技能の完成度を高めたものを身に着ける力を養う。

B

**指標** 授業内に実施する独自のアンケートにおいて、「授業はわかりやすい」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を技術・家庭科の平均をとって80%以上にする。

**〔進捗状況〕**

- ・座学の授業では、生活に密着した教材を扱うことにより、生徒の関心意欲も高まっている。班で行う活動を増やすことで、自分たちで協力し合い、考えて学び合う姿勢がみられてきている。
- ・試験前に振り返り学習をして中学校生活3年間を見越して身につけることや覚えていくことの指導を引き続き努める。
- ・1年生の家庭分野では、刺し子布巾作成を実習室で行い、対面式で班のメンバーの作品も見ることや意見交換もできたことで新たな授業展開に入っていた。引き続き班活動に努めていく。
- ・調理実習が始まり、1年生はコロナ禍の影響で小学生の時からできていなかったことを取り戻せるように調理に触れるに努めていく。

**〔目標の達成状況と結果と分析〕**

実習や班活動では、積極的に参加する生徒もいるが、すぐに教員に質問をする生徒もいた。そのため、取り組み内容、実習への事前指導、実習時間配分を考え、生徒が教わる授業から自分で考え学びを深める授業を継続して定着させていきたい。

座学においては教え合いや、班活動の時間を増やすことはできた。ICTがつかえる環境を整備し、ICT機器を多く取り入れた授業を行い生徒自身が学びについて考える時間を増やしていきたい。

調理実習は各学年生徒自身が事前学習時に班分けをして、自分たちのすることをまとめて実践に挑むことができた。

**取組内容②-9【各教科】〈英語〉**

- ・「主体的に学習に取り組む態度」については、生徒がペアワークや発表を通して学ぶ機会を増やし、英語の楽しさ、できる喜びを感じ、自ら英語を学ぼうとする姿勢を育成する。また、授業内でC-netと共に英語を発信する機会を増やす。
- ・「思考力・判断力・表現力」については、パフォーマンステスト（スピーキングテストなど）や英作文の取り組みを通して、英語で自分の気持ちを発信するなど英語を活用する実践的な授業を展開する。
- ・「知識・技能」については、ペアで音読をしたり、英単語を覚えるなど、反復活動を通して自然に英語力が身につくように授業を展開する。

B

**指標**

- ・習熟度別授業の実施前後のアンケートにおいて、「英語の授業が楽しい」の割合を10%上げる。

- ・全学年、府のチャレンジテストの平均点を上回る。

**〔進捗状況〕**

現在3年生が習熟別授業を実施しており、アウトプットの量を増やし、分からぬ所を個別でフォローできるように、少人数授業での利点を生かして日々授業を行っている。また、週末ライティングなど英語で作文を書く習慣を設け、知識を定着させるための取り組みを行っている。

**〔目標の達成状況と結果と分析〕**

習熟別アンケートにて「英語の授業が楽しい」という回答の割合は4%上がった。

C-netの協力のもと、各学年でスピーキングなどのパフォーマンステストを定期的に行い、英語で自分の意見を発信する機会を多く設けることができた。

デジタル教材を含めて、ICTを活用した授業を展開し、生徒が授業により積極的に取り組めるようになった。

チャレンジテストの結果は3年生が大阪府の平均と-2.1ポイントであり惜しかった。1, 2年生の結果は現在出ておりませんが、大阪府の平均を超えていると信じている。

**取組内容③【図書館】(図書主担)**

- ・生徒図書委員会で図書だよりを制作し、毎月発行を行い図書室の来館者数を増やす。また、授業の進度や内容、行事に関連した本・書籍を各学年のフロアに置き、本に興味を持たせる。
- ・学年で朝読書を行い、読書の習慣を身につけさせる。

B

**指標 図書室の来館者数を毎月100名以上にする。****本の貸し出し数を233冊以上にする。(昨年度203冊)****〔進捗状況〕**

締め切りに間に合わないことがあったが、1人1枚、図書だよりを発行することができた。並行読書について、毎月の委員会で聞き取りをし、図書館司書とも連携をしながら設置できている。新刊蔵書のアナウンスも行った。また、書籍の興味・関心を高め、来室者数を増やすための取り組みとしてポスター・ビブリオの実施を予定している。

**〔目標の達成状況と結果と分析〕**

図書室の来館者数は8月・12月を除いては100人を超えた。本の貸し出し数は750冊(1月31日現在)となっている。後期も変わらず図書だよりを製作し、掲示することができた。

並行読書について、中でもフロアに置いてほしい教科や分野を生徒から直接聞き取り設置するような工夫ができた。来館者数については、常連の利用者が多い。また、貸し出し数については、初めての試みであったイベントがやはり大きく貢献したものであると考える。今後、さらに多くの生徒が本を手に取るきっかけとなるようなイベントや発信力を強化していきたいと考えている。

**取組内容④【若手教員研修の充実】(メンター)**

- ・校内研究授業、各種校内研修の充実を図り、教科指導力を含む、教師力の向上を図る。
- ・今年度は人権学習の取り組みをメインの課題とする。

B

**指標 経験年数5年未満の教員を中心に、教科指導力を高めるため、校内の研究授業や各種研修を年3回以上実施する。****〔進捗状況〕**

- ・5月(1年間の課題決定)・7月(電話対応の仕方)にメンティ研修を実施済。
- ・今年度は人権学習指導計画の中から各学年での取り組みを個人の課題としている。

**〔目標の達成状況と結果と分析〕**

5月・7月・3月(予定)にメンティ研修会を実施。本年度は学級運営、学年運営や校務分掌以外に、人権にかかわる取り組みを課題とし計画を立てた。3月のメンティ研修で振り返りを行い次年度につなげていきたい。

**取組内容⑤ー1【学力向上 各学年 1年】**

- ・チャイム着席を定着させ、落ち着いた環境で学習に取り組む姿勢を養う。
- ・週3日、朝読書を取り入れ、本に親しみを持つとともに、授業前に気持ちの切り替えができるようにする。

B

**指標 チャレンジテストの平均点を大阪市の平均程度にする。****〔進捗状況〕**

- ・学級代表や班長の声掛け、教科担当が早めに教室へ向かうこともあり、チャイム着席を行うことがおおむねできている。より生徒同士の声掛けを行い、チャイムと同時に授業がスタートし、授業時間をしっかりと確保していくようにしていく。
- ・週3日、朝読書に取り組み、本に親しむことができている。しかし、宿題が間に合わず取り組む生徒もいるため、朝読書の意味をさらに意識づけていく。

**〔目標の達成状況と結果と分析〕**

チャレンジテストの結果がまだ出でていないため、取り組み内容の分析を行う。

学級代表の声掛けがなくても自分たちで教室に入り準備ができる日も増えてきたが、チャイムが鳴ってから気づく日もまだあるため、より意識づけをする必要がある。おおむねチャイムと同時に授業を開始し、授業時間も確保することができた。

週3日朝読書に取り組むことができたが、宿題に取り組んでいる生徒もいる状態である。宿題への取り組み方についても学年で意識を高めていきたい。

取組内容⑤－2【学力向上 各学年 2年】 ・週3日の朝の時間をパソコンでの自主学習の時間に使い、落ち着いた状態で1日の授業に取り組めるようにする。 ・チャイム着席を継続し、自主的に学習できる意欲を高めさせる。	B
--	---

指標 チャレンジテストの平均点を大阪市の平均程度にする。

〔進捗状況〕

週3日、朝の自主学習は落ち着いて取り組むことができている。またチャイム着席など学級代表中心に継続して声掛けしており、引き続き落ち着いた状態で授業に取り組めるようにしていきたい。

〔目標の達成状況と結果と分析〕

週3日、朝の自主学習は落ち着いて取り組むことができた。またチャイム着席など学級代表だけでなく自分たちで声をかけることができている。来年度も落ち着いた状態で授業に取り組めるようにしていきたい。

取組内容⑤－3【学力向上 各学年 3年】	B
----------------------	---

・朝の自主学習や授業、集会などを通して学習に対する意識を高め、自らに必要な学習に積極的に取り組み、学年全体がそれぞれの進路に向けてしっかり努力できる気持ちを持たせる。

指標 チャレンジテストの平均点において、府平均との差を昨年度より縮める。

〔進捗状況〕

夏季休業中は、5教科を中心に補習授業に取り組み学力の向上に努めた。また、朝の自主学習では、自分に必要な学習に意欲的に取り組み、落ち着いて過ごすことができている。

〔目標の達成状況結果と分析〕

チャレンジテストでは2年時の平均値より-0.1ポイントであった。後期も引き続き、朝の学習では、自分で学習に取り組み落ち着いて過ごすことができていた。朝のパソコンの使用率をさらに上げることができればよかった。

取組内容⑥【食育】(給食主担)	A
-----------------	---

・「食育だより」などを発行して生徒、保護者の意識・関心を高める。  
・給食の時間などを通して、食生活や健康、マナー、衛生面について心がける意識を育む。

指標 給食前の手洗いの徹底、当番のエプロン・マスク・三角巾の着用の徹底を図る。

〔進捗状況〕

手洗いの徹底はできているが、当番のエプロン等の着用は学年やクラスによって、実施のばらつきがある。全学年、全クラスで着用徹底するための取り組みを考える必要がある。

〔目標の達成状況と結果と分析〕

毎月「食育だより」を欠かさず発行し、また、保健委員の活動を通して、生徒の食育に対する意識・関心を高めることができた。給食の準備で、手洗いの徹底ができた。また当番のエプロン、マスク着用率は相当高いが、完全とは言えない。今後も引き続き指導する必要がある。保健委員の委員会活動で、残食を減らすキャンペーンをして、成果を上げた。

取組内容⑦【健康な生活習慣の確立】(保健主事・養護教諭)	B
------------------------------	---

・生徒自らが健康について関心が持てるような保健教育の推進を図る。  
・定期健康診の結果を的確に本人と保護者に知らせ、健康についての意識を持ってもらえるように働きかける。

指標 定期的な保健通信の発行。

健康診断の未受検者数を減少させる。

定期健康診断での結果等は複数回の通知をする。

〔進捗状況〕

・定期的に保健だよりを発行している。  
・学校医による健康診断は家庭から受診できるような体制を整えつつある。  
・定期健康診断結果、治療勧告が必要な生徒へは2回の通知を行った。

〔目標の達成状況と結果と分析〕

定期的に保健だよりを発行した。欠席の多く定期健康診断を受けることができなかった生徒に対して、自宅から学校医の病院に受診し、定期健康診断を実施することができた。受診した生徒の割合は対象者の8.4%と低いが、今後もこの体制を充実させ、受診生徒を増加させたい。

健康診断の結果、医療機関への受診生徒の割合は41%で昨年度(35%)より増加した。

**取組内容⑧【体育的行事の充実】(保健体育科)**

- ・体育委員などのリーダーを育成し、そのリーダーとともに学校行事や学年行事、学級活動の充実を図る。
- ・各学年での球技大会を1回以上企画運営する。

B

**指標** 前期、後期の委員会終了時にアンケートを行い「体育委員として自信をもって指示を出せるようになった」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を90%以上にする。

**[進捗状況]**

- ・体育委員会で、良きリーダーとしての在り方について考えさせている。また、号令のかけ方や生徒の動かし方などを指導し、リーダー育成に努めている。
- ・体育大会などの体育的行事では、生徒自身の手で行事が充実させられるように、生徒会や学級委員を指導している。
- ・前期の体育委員のアンケートでは、間違った行動を正す声掛けには躊躇する場面があるという意見もあったが、全員が自信をもって指示を出せるようになったと回答した。

**[目標の達成状況と結果と分析]**

「体育委員として自信をもって指示を出せるようになった」という質問において、後期も体育委員全員が肯定的な回答であった。1、2年の体育委員を中心に駅伝大会を開催することができたことも自信につながったと考える。球技大会等が予定が立たず実施することができなかった。

**取組内容⑨【体力向上への支援】(保健体育科)**

- ・授業内容や教材を工夫し、生徒に運動への興味関心や目標を持たせる。
- ・運動量を意識した授業計画を立てる。
- ・運動する時間を確保するために昼休みのグランドでの過ごし方等を体育委員会を中心に立案する。

A

**指標**

- ・全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、「保健体育の授業で、目標を意識して学習することで、できたりわかったりすることができますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を大阪市平均以上にする。
- ・全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、「保健体育の授業でタブレットなどのICTを使って学習することで、できたり・わかったりすることができますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を大阪市平均以上にする。

**[進捗状況]**

- ・今年はオリンピックが行われたので、授業の導入で話をしたり、夏季休業の宿題として選手調べや競技調べに取り組ませた。
- ・教師間で教材研究などの意見交換を行い、授業の工夫を行っている。
- ・前期の体育委員会で昼休みの過ごし方についてのアンケートを全校生徒対象でおこなった。この結果をまとめて後期でボールの種類などの話し合いを進めニーズに合った道具が提供できるようにしていきたい。

**[目標の達成状況と結果と分析]**

全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、「保健体育の授業で、目標を意識して学習することで、できたりわかったりすることができますか」の肯定的回答が男子で85.1%、女子で85.7%と大阪市平均（男子83.2、女子81.1）を上回ることができた。

全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、「保健体育の授業でタブレットなどのICTを使って学習することで、できたり・わかったりすることができますか」に対して、肯定的な回答が男子で70.1%、女子で64.9%と大阪市平均（男子52.5、女子50.3）を上回ることができた。

今年度は保健の授業以外でもICT機器を用いて実技の振り返りテストやハードル、器械運動の授業での動画撮影を実施した。

昼休みの過ごし方のアンケートを取り、後期の体育委員会でボールの種類を（各クラスドッヂボール2球からドッヂボール1球とバレーボール1球）変更した。授業でバレーボールに取り組んだり、ドッヂボールに比べて柔らかさのあるバレーボールが利用率アップの要因だと思われる。特に女子の外遊び率があがった。

今年度は部活で使わなくなったボールを使用したが、来年度はバレーボール購入を予算に盛り込みスタートさせたい。

大阪市立市岡中学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>(3) 学びを支える教育環境の充実</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。⇒38.5%</li> <li>「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を50%以上にする。⇒39.53%</li> <li>地域の人と協働し、学校内居場所事業「はとばカルッチャ」を週に1回程度開催し、生徒の自己有用感を高める。⇒週1回程度開催している</li> </ul>	B
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】（ICT主担）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ICT機器の活用により、視覚的に教材提示をすることで、生徒にとって授業が楽しく、わかりやすくなるような工夫をする。</li> <li>デジタル教科書やデジタルドリル等を活用し、個別最適な学習を推進する。</li> <li>校内研修を実施し、教職員の教育DXへの理解を深める。</li> </ul> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教職員対象のアンケートにおいて、「ICT機器を用いた授業を行ったことがある」と回答する教員の割合を90%以上にする。</li> <li>デジタル教科書やnavimaの教職員の使用率を20%以上にする。</li> <li>学期に1度以上の校内研修を行う。</li> </ul>	B
<p><b>[進捗状況]</b> 教職員の中で、「ICT機器を用いた授業を行ったことがある」と回答する教員の割合は85%以上であった。デジタル教科書やnavima等の使用率については50%を超しているが、定常的な活用はできない。そのため、今後、学期に1度の研修や校内研修期間を通して、ICT機器の活用方法を広めていき、90%以上を目指す。</p> <p><b>[目標の達成状況と結果と分析]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教職員対象のアンケートにおいて、「ICT機器を用いた授業を行ったことがある」と回答する教員の割合は90%以上を上回ることができた。次年度は、活用方法へのアプローチをしていきたい。</li> <li>デジタル教科書やnavimaの教職員の使用率は53%あり、20%を上回ることができた。しかし、日常的に使えていないと思われるため、次年度への課題にしたい。</li> <li>学期に1度以上校内研修を行うことができた。さらに2学期後半からは、ICTミニ研修を行うことで、ICT機器の活用を広めることができた。</li> <li>次年度に向けて、校内のICT機器の整備と校務でのICT利用を推進していきたい。</li> </ul>	
<p>取組内容②【働き方改革】（管理職）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>心理的安全性をベースとした働きやすい職場環境を創出する。</li> </ul> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>月の勤務時間外労働が80時間を超える教職員を年間延べ36人以内とする。</li> <li>長期休業等を活用し、年次有給休暇を全員が5日以上取得する。</li> </ul>	B
<p><b>[進捗状況]</b> 月の勤務時間外労働が80時間を超える教職員は8月末現在で15人である。年次有給休暇については、8月末現在で、5日以上取得している教職員が45名中30名である。教職員が働き方について工夫している様子が見て取れる。引き続き、ノーギャバ等に向けた業務調整等、全教職員で取り組んでいく。</p> <p><b>[目標の達成状況と結果と分析]</b> 月の勤務時間外労働が80時間を超える教職員は1月末現在で23人であった。年次有給休暇については、1月末現在で、5日以上取得している教職員が44名中41名であった。全教職員で働きやすい職場環境についての意見を交流し、取り組んでいく。</p>	

<p>取組内容③【家庭・地域などと連携・協働した教育の推進】(管理職)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域による学校支援の取組や、学校・地域・家庭の連携による様々な取組などの一層の推進を進める。</li> </ul> <p>指標 年度末の学校評価アンケート（生徒）において、「学校や家庭や地域に居場所はありますか」に対して、最も肯定的に回答する生徒の割合を75%以上にする。</p>	B
<p>〔進捗状況〕</p> <p>前期の学校評価アンケート（生徒）において、最も肯定的に回答する生徒の割合は78%であった。困りごとがあったときに気軽に相談できるような関係性を築き、学校や家庭や地域で連携し、生徒の居場所づくりをすすめていく。</p>	
<p>〔目標の達成状況と結果と分析〕</p> <p>後期の学校評価アンケート（生徒）において、最も肯定的に回答する生徒の割合は72%であり、中間評価時よりも減少した。学年別にみていくと、1年が-9%・2年が-7%・3年が-2%という結果であり、中学校へ進学し、成長するとともに、コミュニケーションをとる難しさを感じる場面が多くなったのではと考えられる。引き続き、家庭や地域と連携し、生徒が安心してありのままの自分でいられる場所を提供できるようにしていきたい。</p>	